

開学20周年 記念号発刊によせて

「学問にとって平坦な大道はない」といわれる。開学20年、いま、本学における学問研究の発展と、充実のあとを顧みて、私は、あらためて、先覚のこの言葉の真実性を痛感せざるを得ない。

「学問にとって平坦な大道はない。そして、その険しい小径をよじ登る労苦をいとわないものだけが、その輝かしい明るい頂上に到達するしあわせを持つ。」

学問の道は、険しくかつ遠い。「その輝やしい明るい頂上」は、「よじ登る労苦をいとわないもの」にとっても、限りなく接近することは可能でも、到達は不可能なイデーと見らるべきものかも知れない。しかし、それへの到達のための努力は、学徒に課せられた使命であり、そのための労苦は、研究者の覚悟すべき運命であるといえよう。この記念号の発刊を契機として、研究がますます深められ、本学の学問的水準がいっそうの高まりを示すとともに、『商経論叢』が学界に漸次重きをなすに至ることを、切に期待したい。いまや、本学は、成人期に達したのである。

鹿児島県立短期大学学長

佐 伯 延 次 郎